

大豆「里のほほえみ」の早期播種による良質安定栽培の実証

要約

大豆の梅雨入り前の早播区は、蔓化・青立ちし、収穫期が標準播区より遅くなったことにより品質が著しく低下した。したがって、県南地域において6月上旬の播種は適さないと判断された。

○ 展示のねらい

令和2年度大豆播種は、6月11日頃梅雨入り以降の連続した降雨によって播種が行えないほ場が多発した。そのため、梅雨入り前に播種を行い、比較的蔓化しにくいと考えられる里のほほえみでの初期生育の確保と安定生産を検討し、現地での実用的な技術として実証を試みる。

○ 主な成果

表1 収量調査

区	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	最下 着莢高 (cm)	莢数 (個/株)	稔実莢数 (個/株)	子実粒数 (粒/株)	子実重(全 重g)	10a当たり 子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)
早播区	82.7	13.3	4.8	15.2	36.1	32.6	63.9	507.5	153.8	37.5
標準播区	61.3	10.6	6.7	12.7	36.0	33.0	55.2	448.5	135.9	38.3

注1) 早播区：6月8日播種 標準播区：6月28日播種

注2) 刈取面積3.3m²

注3) 収量は小粒(5.5mm)以上で算出

注4) 百粒重は、大粒(7.9mm)以上で算出

注5) 坪刈日：11月5日

早播区で主茎長は標準播区に比べ約20cm高く、主茎節数は3節多くなった。子実粒数は標準播区に比べ、8粒/株多かった。早播区10a当たり子実重は標準播区と比較し17.9kg増加した。しかし、百粒重は標準播区と比較し0.8g減少した。

表2 生育調査結果

	開花期	成熟期	農家収穫日
早播区	7月23日	11月5日	11月24日
標準播区	8月5日	10月27日	11月4日

表3 品質調査

区	大粒率	外観品質
早播区	86.7%	2等
標準播区	89.7%	1等

注1) 外観品質は大粒(7.9mm)以上で算出

開花期から成熟期までの期間は、標準播区が84日間であったのに対し、早播区は106日間で22日間長かった。大粒率は標準播区と比較して早播区で3%減少した。外観品質は標準播区が1等だったのに対し、早播区で2等だった。早播区は青立ちが目立ったため、収穫が11月下旬となった。

○ 今後の方向性

県南地区においては、6月上旬の大豆播種は蔓化・青立ちのリスクが大きいため、梅雨入り前の播種は推進しない。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：小山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315